レッツゴー星空

豊穣　登呂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
レッツゴー星空

【Ｎコード】
Ｎ６１５１Ｍ

【作者名】
豊穣　登呂

【あらすじ】
星空に旅立つおはなし。

道を歩いていると、夜の闇の中に浮かび上がる星粒をみつけた。
地上に舞い降りた星。
細い路地で、両側を四角い民家に囲まれている。地面はコンクリート。街灯は薄らぼやけている。
その街灯を挟むようにして私と、その星粒は、睨み合う格好になってしばらく、そこでお互いに見合っていた。
「あなたはここに何をしにきたんですか？」
と私は、ゆっくりと尋ねる。すると星粒を纏った『その人』は、数歩前に進んだらしく、そのおかげで街灯の明かりをその身に浴びていた。
星粒を身に纏った女性。それが、正体だった。
「あなたはここに何をしにきたんですか？」
彼女がオウム返しを放ってきたので、私は少し思案して、顎に手をあてた。
しばし考え込んだが、なぜこの細い路地に訪れたのか、まるで思い出せないのだった。
「さぁ、私には思い出すことは出来ない。思い出す必要も無いのではないだろうか」
と私が叫ぶと、その女性はくるりと一回りしてから、その場で跳ねた。
「では、旅に出ましょう。ここは暗すぎるから、明るいところに行きましょうか」
そういうわけで、私と女性は手を繋ぎ合い、夜空へと飛んだ。彼女は美しい星粒を身に纏っていて、私はボロを纏っていた。
だが、夜空を飛び回る内に、何時しか私の服も、星粒を集めこんでいた。
「綺麗ですね」「そうでしょう」

私がその美しさに身を委ねていると、彼女の星粒が零れ始めた。
一体どうなってしまうのだろう、と思っていたが、背後に振り返ってみると、安心することが出来た。星粒が尾を引いて、川になっていた。
「星の川」
「そうです、星の川を形作るのです」
彼女と私はどこまでも空を駆けた。そうして何時頃だろうか、夜も随分と深まった時には、私達の周辺には星粒たちが踊りまわるようになったのだった。
「では、いきましょうか、役割を終えたのだから」
彼女がそう言ったので、そうなのだろうな、と私も思った。
「はい、ではいきましょう」
昇り上がる朝日を背に、どんどん高く宇宙へと飛びだって行く。
一度だけ地上を見た。その時には私の、かつての、みんながいた。だけど、私は飛び立つのだ。
「さようなら、みんな」
こうして彼女は飛び立った。
享年、　歳。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6151m/

レッツゴー星空

2010年10月11日11時19分発行